

大阪歴史博物館 特別企画展
「河内源氏と壺井八幡宮」 釈文

32. 足利直冬書下

於摂津国神無山并京都／合戦、度々致忠節之上、
南方／供奉之由、山名左京大夫時氏／注申之条、
尤以神妙也、弥可／戦功之状如件、
(抽脱力)

正平十年五月二日 (足利直冬)
(花押)

金持左近将監殿

33. 徳川家康朱印状

知行之事

一 式石五斗三升 八幡 島中ノ 与七郎
一 壹石三斗三升 同 同二郎兵衛
一 壹石 同 同宗清
一 壹斗三升 同 同孫二郎
合五石壹斗九升
右遣之也、

慶長五

五月廿五日 家康 (朱印)

34. 左兵衛尉忠藤奉書

(花押)

彼御沙汰事、于今遅引之間、／和与之儀、不可叶
之由、道証被申、／難治之次第候歟、所詮百貫用
途内、／近日五十貫を被沙汰進、来九月中／残五
十貫被致其沙汰、如先々、可被知行／候歟、不然
者、先為上御秘計被沙汰／遣彼百貫、於向後者、
毎年九月中被／沙汰進三十貫御年貢、所残者、可

為預所／得分候哉、以両様能々有御計、可令／注
申給之由、被仰下候也、仍執達／如件、

七月十日 左兵衛尉忠藤奉

謹上 壺井五郎左衛門入道殿

35. 某奉書

(花押)

河内国坂田恒光名／預所職事、代々被仰付候／上
者、雖向後、不可有相違、／可被子孫相伝也、但
於三十／貫御年貢者、毎年無／懈怠、可被致其沙
汰之由、／所被仰下也、仍執達如件、

七月廿三日 (花押) 奉

壺井五郎左衛門入道殿

36. 伝後醍醐天皇綸旨

摂津国賀茂村／弥源太跡、為勲功賞、和佐／千鶴丸可
令知行者、／天氣如此、悉之以状、

延元元年八月十五日 左中将 (花押)

37. 伝後醍醐天皇綸旨

摂津国賀茂村／和佐千鶴丸知行、／不可有相違
者、／天氣如此、悉之以状、

延元四年七月十一日 少納言 (花押)

38. 橘氏添状

摂津国賀茂村和佐千鶴／丸可令知行由事、／綸旨
如此、早可被沙汰付彼村之／状、如件、

八月廿四日 橘 (花押)

広瀬大夫法眼御房

39. 後村上天皇綸旨

摂津国賀茂村／地頭職、任先度 綸旨、／知行不
可有相違者、／天氣如此、悉之以状、

興国二年七月一日 左衛門権佐 (花押)

和佐千鶴丸殿

40. 楠木正儀下文

摂津国田中五郎跡／事、任延元二年十二月／廿五
日 綸旨・同三年七月四日／国宣、知行不可有相
違者、／状如件、

正平九年九月廿三日 左衛門少尉 (花押)

石河万寿殿

41. 武者所牒

武者所牒 河内国

可令為兵粮料所金持大和権守広栄／知行当国坂
田福正名 二条刑部卿入道跡 事

右、牒送如件、土民宜承知、敢勿遺失、以牒、

興国元年八月廿一日

隼人正三善朝臣 (花押)／権中納言兼右衛門督藤

原朝臣 (花押) 左衛門少尉藤原朝臣 (花押)／

権中納言兼左衛門督藤原朝臣 (花押) 大判事兼

明法博士左衛門大尉坂上大宿禰 (花押)

42. 後村上天皇綸旨

河内国坂田福正名 最浄光院領、大覚寺宮庁管領分、当年為兵粮／料
所、可被知行給者、／天氣如此、仍執達如件、

興国六年正月廿六日 大藏卿 (花押)

謹上 左大弁宰相殿

43. 参議左大弁某家御教書

(花押)

河内国坂田福正名／最浄光院願大覺寺宮庁宮領分当年所務事、／令契約候上者、更不可有相違之／由、所候也、仍執達如件、

興国六年三月十日 小尉成実奉

山城五郎左衛門尉殿

44. 後村上天皇口宣案

正平十年十二月廿九日 宣旨

源守純

宜任左兵衛尉

藏人頭右近衛中将藤原公夏奉

上卿別当

45. 長慶天皇口宣案

上卿權中納言

文中元年十二月十一日 宣旨

兵庫允源忠久

宜任大膳亮

藏人頭左中弁兼春宮亮藤原經高(カ) 奉

46. 長慶天皇口宣案

上卿野宮中納言

天授二年二月七日 宣旨

右衛門少尉源忠久

宜任美作守

藏人左小弁平惟長奉

49. 長久信・遊佐順房連署書狀

壺井・坂田・倉内／事、本地之旨致披／露之处、何様連々／播磨様江可被仰由候、／先為替地八ヶ所内／日根野六郎左衛門尉跡／事、被仰付候、如先々、／可被全知行之由、可／申旨候、恐々謹言、

七月六日

長備中守

久信 (花押)

遊佐勘解由左衛門尉

順房 (花押)

壺井源左衛門尉殿

50. 長久信書狀

連々御申通、致披／露候之处、御心得／行候、目出候、壺井・／坂田・藏内本知、殊更／壺井事者、名字之／地之由、具入 御耳候、／於此旨者、連々播磨様江可被申入候、先壺井為／替之地、八ヶ所之内、日根／野知行被仰付候、如先々、／可被全領知之由候、恐々／謹言、

七月六日

長備中守

久信 (花押)

壺井源左衛門尉殿

51. 長久信書狀

八ヶ所内日根野／跡之事、以前雖／被仰付候、内波多／源次殿、為先給之／条、被返付候之(マ) 奉、訖、／然間、為替地、郡戸／孫三郎跡僧坊并／弘川兩寺売地被／仰付候上者、可被／令知行之

由候也、恐々／謹言、

(貼紙)
「永正元年」

十月十二日

長備中守

久信 (花押)

壺井源左衛門尉殿

52. 遊佐順盛書狀

太子僧坊之売地并／弘川寺売地、先年／郡戸孫三郎被仰付候／分之事、我々可存知／闕所候間、雖被官新山／申付候、從 御屋形、事／分被仰事候条、先可／□□由申付候、然上者、／可有御知行候、恐々／謹言、

(貼紙)

「永正二年」

十一月一日

順盛 (花押)

壺井源右衛門尉殿

進之候

53. 伊地知盛秋・丹下盛賢連署書狀

河内国野田庄内之内／是行名、任永正二／十一月廿三日御奉書／旨、無相違、可被全／領知之由、所被仰出也、／仍執達如件、

永正五

二月五日

盛秋 (花押)

盛賢 (花押)

壺井三郎左衛門尉殿

54. 丹下盛知・三宝院快敏連署書狀

平石跡職事、中務大夫／任讓旨、息千徳丸可／有相続、但小法師至十／五歳迄、為名代塗岡／兄弟七

彼知行分被／仰付候訖、其内山林并／被官百姓等
事者、三／分一可被存知、小法師／為堪忍分、每
年拾五／石宛、可被遣之、此旨堅／可令存知之
由、被仰出者／也、仍執達如件、

天文十七

九月三日 盛知（花押）

快敏（花押）

壺井源右衛門殿

55. 丹下幸知書狀

畑彦七郎知／行分之事、申／合候、弥向後無／油
断、御馳走／専用候、恐々／謹言、

天正四

丹備

十月十四日

幸知（花押）

壺龜

進之候

56. 中本正信書狀

以上

如仰、近日者無／音所存之外存候、／仍壺井殿・
松原殿／知行分八ヶ所^ニ有之／分、被仰分由、得／
貴意存候、從兩様も／御意通^ニ心得、／於爰元、似
相之／御用等可仰付候、／猶期後音候、／恐惶謹
言、

九月十八日 中本

正信（花押）

丹備様
まいる

御報

57. 通法寺某書狀

当寺後住之義、為／御寺務上者、如先例、／□□^{（旨々）}
可有御沙汰也、／且修補近々宜敷／頼存候、恐惶
謹言、

七月廿五日 通法寺（花押）

壺井源左衛門殿

58. 六波羅禁制

禁断 河内国古市郡通法寺

可早令停止武士以下甲乙人等狼藉事

右、当寺者關東嚴重之御祈禱所、／圻内無双之大
靈驗所也、千手觀音／施利生諸人、仰頓致帰敬、^{（カ）}
然間、於寺／内寺領者、可止甲乙人濫妨狼藉之
由、代々／有制禁之处、近年違乱之輩出来云
々、／太以奇恠也、向後宜從停止、若猶不／拘
禁網者、早可注進名字之狀、如件

弘安九年九月一日

（北条兼時）
修理亮平朝臣（花押）

（北条時村）
武蔵守平朝臣

59. 六波羅裁許狀

河内国通法寺住僧等申、同国住人良寿・行乘／
以下輩掠領当寺領、不從所勘、不并勤公事○申事^{（所當）}
右、彼免田肆町参段者、為伊予入道殿御寄進、帶
八幡／殿以下代々御下文、寺僧等知行之地也、而
行乘以下甲乙／人等、乍令耕作寺領、对捍課役之
由、就住僧訴、度々／雖下召文、不事行之間、明
春正月十五日以前可催上、若猶／過期日者、就訴
狀、可加下知之旨、可相触彼輩之由、仰出羽／六

郎入道慈忍、去年十二月廿五日遣召文之处、如今

年／□□廿七日慈忍請文者、任被仰下之旨、度々
相触交名人／候之处、行乘請文如此、々外輩不及
請文、致状候云々、／如行乘請文者、企參洛可明
申云々者、或雖捧請文、／于今不參、或不及致状
之旨、慈忍請文分明之上者、無／理之所致歟、然
者就召文違背之篇、可預勅裁之由、寺僧／等所
申、非無其謂歟、早任先例、相從所勘、可并勤
有／限所当公事之狀、如件、

正応五年八月二日

（北条盛房）
丹波守平朝臣（花押）

（北条兼時）
越後守平朝臣（花押）

60. 六波羅裁許狀

河内国通法寺執行琳海与供僧道覚／舜海等相論
仏性田并三昧田以下条々事

本田肆町参段修理料参町参段者

右、当寺者、為伊代入道殿御建立之地、如寿
永・／元暦・文治・貞応・文永關東御下知者、或
停止／甲乙人等乱入敷地、浮免所当等不可有闕
怠之由、被載之、或五山林樹木止諸方之煩、可／
為寺家進止云々、爰琳海則任關東代々／御下知、
就執行職可領知之由申之、供僧等／亦守文治關東
御下知・正応六波羅成敗、可致／沙汰之旨、称之
者、就訴陳狀、有其沙汰之处、／去年六月令和与
畢、如状者、於仏性田肆町／参段者、任正応六波
羅御下知、供僧等可令／領知、其外条々者、可為
琳海沙汰云々、／然早守彼狀、向後相互不可有違
乱之狀、如件、

永仁七年正月十二日

右近將監平朝臣(北条宗方)(花押)

前上野介平朝臣(大仏宗宣)(花押)

61. 遊佐元繁課役免状

河内国通法寺并諸／末寺領目録在別紙事、於段錢／以下臨時之課役等者、／任代々御判之旨、所令／免除之状、如件、

明応九年卯月十四日 元繁(花押)
当寺住持

62. 丹下盛賢書状

河内国通法寺々領京都／公方段錢事近年号休、毎年被相受分、致／奉寄附千手觀音上者、弥／武運長久之御祈禱可被／抽精誠者也、仍所被仰出如件、

大永七年七月七日 備後守(花押)

63. 木沢長政書状

御寺領事、任先例、段／錢以下臨時非分之課役／等之儀、可有免除之由、被／仰出、則被誠置(成)御判候、／玆(珍)重候、恐々謹言、

天文九

十一月九日 長政(花押)

通法寺雜掌

64. 定尊讓状

(讓) ゆつりわたすつほうしのしゆきやうし／きの事(渡) (通法寺) (執行職)

(件) くたんのしよくハ、ちやうそんたいくさう／てん(職) (定尊) (代々) (相伝)
(間) のあいた、右たいしやうけのみけうそいり／のし(右大將家) (御教書)
ゆきやうしきふんのもんそをあい／そへて、にん(文書)
そうはうになかくゆつりぬ、／たゝし、てつきの(永) (手繼)
(連券) れんけんたるあいた、あい／そへす候、ゆつりしやうくたんのことし、

(弘安) こうあん二ねん二月 日
ちやうそん(花押)

65. 僧定盛讓状

奉寄進 河内国古市郡通法寺々領別当寺／務并所職名田畠山野所從資財雜具等／事

右、於当寺領以下等者、僧定盛代々相伝之所／領也、而為世間無常之習上、連病更甕之間、兼／所注置也、且任先師素意、嫡男代一丸宛行畢、／但若代一丸不慮子細出来相伝難治之時者、／舍弟童一丸令相伝知行寺務以下、尤可致興／隆也、且任先師讓状并代々調度証文等、所讓／与明白也、仍為後代龜鏡、所注置之状、如件、

文保二年戊午八月三日 僧定盛(花押)

66. 法眼乘盛讓状

讓与

河内国通法寺別当并執行兩職事

右、当職者、乗盛相伝所職也、而去正平／十一年十二月十三日宛乗海之身、雖掠給／別当職之国宣、乗海悔先非、同十三／年二月十日如元令讓与乗盛畢、爰／乗盛為所勞之身之間、今存生之時相

副／勅裁国宣并代々手繼等、兩職共悉令／讓与小法師丸事、実也、後々末代更不可／有他妨者也、仍讓状如件、

正平十三年戊戌四月廿二日 法眼乘盛(花押)

67. 僧乘海讓状

通法寺別当職事、正平十一年十二月十三日宛／乗海身、下賜安堵国宣、当知行無相違者也、爰／依有当寺觀音之御夢想之告、任先師定盛之／讓状、伯父于乗盛如元彼別当職讓渡畢、雖／然、乗海所給之御下知於野崎備中守方有預置之／間、可返給之旨、連々雖令申、不返賜之条、希代之／猛惡之所行也、而彼国宣案文封裏、相副讓状之／上者、為正文寺家一円管領永代不可有相違者也、／若帶彼国宣正文、○当寺成煩輩者、可被処盜／人之罪科者也、次号乗海子孫兄弟、不可致彼／別当職違乱煩、將又於身不可有変事者也、／若此条偽申候者、日本国中大小神祇殊当寺觀音／御罰於可蒙罷候、仍讓状如件、

正平十三年戊戌二月十日 僧乘海(花押)